発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番 7140番
編集兼発行人　北岡　隆

# 団結を固めよう！

## 畠山委員長ら全中闘来山

三池闘争激励のため、三鉱連としてははじめて全中闘が、三池へ来山した。ロック・アウトを契機に、会社は組織分断を目指し、激しい攻撃をかけているが、組織を盤石の態勢におき敵の攻撃をはね返えすことを各地域で話合った。

### 生活資金は大丈夫だ

三鉱連畠山委員長以下中闘全員は三池闘争支援のため来山、おりから笹林公園でひらかれた「不当ロック・アウト反対抗議総決起大会」に参加した。

大会終了ご、ただちに各地域へ激励のため、ニュースカーに同乗してかけ廻ったが、いらい各地域での懇談に参加したり、拒否者を囲んで話すなど二十八日夜、山野へ向けて出発するまで、連日支部、地域での話合いに加わった。

畠山委員長は、闘いに対する決意についてつぎのように述べていた。

東京を起つ前、総評の太田議長岩井事務局長、炭労原委員長との四者会議をもつたが、ここで三池闘争に対する資金カンパは絶対大丈夫だという事を、三池の人たちに伝えてくれといわれた。ロック・アウトにより組合に経済的に打撃をあたえ、台所からしめあげようというのが会社の一つのネライとなつているだが総評の一月以降の五〇円カンパ、炭労の六〇〇円カンパは予定通り遂行できる見通しであり〃生活面では絶対に心配はかけない〃という確信がある。

三鉱連としても一月の中闘委員会で、闘争終了まで一、〇〇〇円カンパを決定した。

### 敵は第二組合結成を狙っている

つぎに、会社のねらつているのは組織分断である。

闘いはいよいよ長期闘争に突入した。長期闘争には第二組合の結成による組織の切崩しが、いままでの諸闘争には必ずといつてよいほど出て来ている。三池の闘いにもこれがないとはいえない。もし組織の分裂でも起つたら、それこそ大変である。太田議長もその点ではとくに心配していた。

聞くところによると、三池にも批判勢力がいて、分裂を企らんでいるという。この心配がただ心配の域を出なければよいが、そのためにも、組織点検を十分におこない、警戒する必要があろう。

### 五山も戦術強化へ

敵もこんどの闘いに対しては非常に強固な態度でのぞんで来ている。追いつめられた所に来て必死になつて攻撃をかけて来たそれに対して、たんに〃一一三日の闘いに勝つたから〃という安易な気持だけで、闘いに立向つたら、危険この上もない。

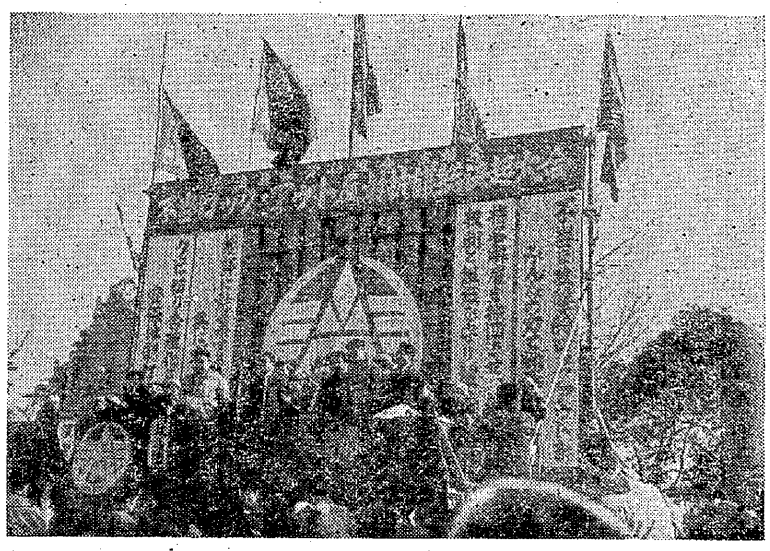
自信と確信は、もちろん持つべきであるが、甘い考えは捨てすべての労働者と団結して、さいごまで闘い抜く強い決意が必要である。

会社は攻撃の手を三鉱連の中でも、三池に集中させている。各山には攻撃のかけ方も違うし、また各山の闘いの歴史の違いもあり、組合員、家族の感度も三池とは必ずしも同じではないが三鉱連としては、五山もさらに戦術を強化して、一体となつて三井資本と対決することになつた。

三鉱連の結束に対してとかくの風評もあり、敵の宣伝も相当デマをとばしていたが、その心配は今日限り捨てて貰いたい。

三鉱連が一体となり、そしてそれを中心に炭労、総評の構えを固めることが、闘いを勝利に導く基本である。

この際、三池は不動の態勢をとつて、敵のあらゆる攻撃に動揺することなく、闘いに取組むことが、いま三池としての一番大きな任務である。



# さあ闘い抜くぞ！

## 不当ロックアウトに笹林で総決起大会

不当なロック・アウトと対決して全面ストに突入した二十五日、笹林公園で午前十時から組合員、家族が怒りに燃えて三千人の一大「不当ロック・アウト反対抗議総決起大会」をひらいた。肌を刺すような寒風にさらされながら、大会は組合員、主婦の怒りを反映して不当ロック・アウト粉砕、断固闘い抜くの意気は天を衝き、新たな決意を誓い合つた。

### 広場を埋めた三万

「炭掘る仲間」の合唱で大会は幕をおとした。

大会正面にこしらえた舞台には、全国の仲間から寄せられた寄書きを継なぎ合せた巨大な赤旗に、三鉱労組のマークが白布でクツキリと縫いつけられ、大会場を圧している。

あの広い笹林公園が鉢巻と、赤旗で埋まつてしまつた。

総評がチャータしたセスナ機が会場を低空で舞うごとに、会場は渾波のようなドヨメキ、歓声に渦巻いた。

「このように組合員、家族が沢山集まつて闘う決意を示しています私たちの、この決起大会に激励のため、総評、炭労、三鉱連から多数の人がお目見になつています。私たちの闘いは、逐次統一闘争に発展しています。そして、統一闘争はますます発展する段階に来ているのです。

こんど、あらゆる困難に打勝つてさいごまで闘い抜くことを誓つて挨拶とします」

と、宮川組合長の元気のよい声が会場にひびき渡つた。

### ロ・アは組合閉鎖だ

つづいて南場主婦会長が「今からなお一そう鉢巻を締直してともに闘つて参りましよう」と挨拶するこのあと灰原書記長が経過報告に立ち「ロック・アウトは労働組合閉鎖、つまり労働組合を骨抜きにする、組合をぶつつぶそうというものであることを確認してそのような敵の政策を断固としてはね返すことを決意しましよう」と闘い抜く決意を披瀝した。

大会には、組合長の挨拶のように総評、炭労、三鉱連から多数の代表が参加した。とくに三鉱連からは畠山委員長いか全中闘が姿を見せたことは、こんどの六山の力強い統一闘争を物語るものとして、組合員、家族に無言のうちに力強い勇気を与えていた。

### 三鉱連も運命を賭けて闘う

ます、三鉱連中闘の紹介があり、つづいて北三連、西鉱連代表の紹介、畠山委員長は、三鉱連を代表してつぎのようなメッセージをおくつた。

皆さん達の顔が長い闘争をやつて来たのに以外に明るく、決意に燃えているのを見て嬉しく思います。

われわれは、この大会を契機にいよいよ団結を固め、さいごまで闘うことを決意しなければなりません。この闘いは決して皆さん達だけの闘いでなく、日本全労働者の闘いだということを十分認識されて闘つて頂きたいと思います。

われわれ三鉱連五山は、一日も早く統一行動をとり、そして三鉱連の運命をかけて闘うことをお誓いします。

つづいて九炭労、道炭労を代表して九炭労の丸岡委員長、大地評を代表して遠矢教組委員長、坂口華南連委員長、丸山九州拠点代表が、つぎつぎと挨拶を贈り、ともに闘いに手を携えて進むことを誓つた。

今日の大会の報は早くも全国の各地に飛び、大会に寄せられた祝電は二十数通にも達し、万雷の拍手のなかで、つぎつぎに読み上げられて行く。

ロック・アウト何するものぞの意気は大会場をおおい、働く者の連帯感がひしひしと感じられた。

### 本社前で大デモ

そのあと各支部から主婦二名、組合員三名が意見発表に立ち、また闘うヤマの実態を知り、激励のために来山していた、作家の阿部知二氏が挨拶をおくり、スローガン採択・宣言をおこない、デモ行進に移つた。

〃首切る奴の首を切れ〃〃ロック・アウト粉砕〃など、各支部で趣向をこらしたプラカード、桃太郎旗ノボリなどが、一齊に勇きはじめた。

一隊は上官から本社前へ、一隊は築町から組合本部を通りこれまた本社前へ、延々とデモ行進がつづけられた。

# 組織分断を許すな

## 前進

### ＝三鉱連畠山委員長の決意にこたえて＝

全く不当な、攻撃的ロック・アウトと対決する全面ストに突入してすでに一週間を経過した。

いうまでもなく、この不当ロック・アウトをかけてきた会社は、これまでの賃金遅払い期末手当不払いなどの兵糧攻めにつづく経済面の攻撃を加え、台所から悲鳴をあげさせ、さらにいろいろなデマ・中傷をまきちらし組織分断による闘争きりくずしをたくらんでいるのである。

三鉱連畠山委員長は、全中闘とともに三池に来山し、これからの闘いの展望と問題点として

「私は大牟田へ来るにあたつて、総評の太田議長・岩井事務局長、炭労の原委員長と四者会議をおこなつてきた。そして、まず第一に不当なロック・アウトを受け全面ストに入つた場合、生活面の不安がおこり、その不安から組織の動揺がおこつてくることが考えられる。その動揺こそ会社のネライである。しかし総評の五〇円カンパ炭労の六〇〇円カンパ、三鉱連の一、〇〇〇円カンパは確実に実施遂行できる見透しと自信が出来たので、四者会議を代表して〃生活面については絶対に心配かけない〃ということを三池の同志に伝えてくれとのことだつた。そして総評一〇〇円カンパの第二次分として三、〇〇〇万円をもつてきた。

第二に、これまでの諸闘争の経験からみると、長いはげしい闘いには必ずといつてよいほど組織分裂、つまり第二組合結成によるきりくずしの攻撃が加えられている三池の闘いも長期化することは必至だし、その闘いの中で会社の策動による組織分裂がおこつたら大変なことになる。中央で聞いた情報によると、三池にも批判勢力が相当いて分裂をたくらんでいるということだつた。そして、そのことを心配した四者会議は、組織問題が絶対におこらないように、十分注意してくるようにとのことであつた。

四者会議の心配が、ただ単なるキグであれば幸いだが、もしそのような組織問題がおこる兆候が若干でもあるとすれば、十分注意してもらいたい。

第三に、こんどの闘いにたいする敵側の出方は非常に荒々しく強固なので、決してなまやさしい闘いとは考えられない。〃一一三日の闘いを、闘いぬいたから〃という甘い考えをすてて、三鉱連・炭労はもちろん、すべての労働者と団結して力強く闘いぬく決意をもつ必要がある。

われわれの内部態勢をみると各山にたいする会社側の攻撃のかけ方も違うし、また各山の闘いの歴史の違いもあり各山の組合員、家族の感度は三池と同じではないが、三鉱連は一月中旬の中闘委員会で一、〇〇〇円カンパ（炭労の六〇〇円カンパを含む）を決定したし、二月中旬にひらかれる炭労臨時大会のあと、春闘の中で五山もさらに戦術を強化して、三鉱連全六山が一体となつた大きな力で、三井資本と対決する方針をきめた。

いままで、三鉱連の結束にたいする不安があつたと思うが、その心配は今日かぎりすててもらいたい。三鉱連が一体となつて会社と対決しそれをつつみささえる炭労総評のかまえをかためることが、この闘いを勝利にみちびく基本である。生活資金や、三鉱連・炭労・総評の共闘態勢についての心配はすてて、敵の悪質な組織分断の攻撃に動揺しない不動の態勢をかためることが、いま一番大切な三池の任務である。われわれも共に闘うことを誓う」

と力強い決意がのべられた。

畠山委員長に指摘されたように三池の内部には、いわゆる批判勢力が全くないとはいえない。われわれは、いま一度十分な組織点検をおこない、組織分断をネラう敵の攻撃をハネ返えし、全国の仲間たちの期待にこたえなければならない。

# 「四者会議」設置さる

総評、炭労、三鉱連の鉄の結束によつて三池闘争をすすめるため、中央において太田総評議長、岩井総評事務局長、原炭労委員長、畠山三鉱連委員長で構成する「四者会議」をもうけて闘争推進にあたることになつたが、現地三池でもつぎのとおり「四者会議」を設置し、態勢強化をはかることになつた。

1、三池闘争をより発展させるために、炭労指導のもとに四者会議で大綱的な意志統一をはかり内外にたいする情宣と組織強化のたたかいを統一してすすめる

2、そのために総評、炭労、三鉱連、三池の三役のなかから各一名あてをもつて構成し、大地評の事務局長がその事務局を担当し、必要により三池の次長が事務局に入る。

3、今後毎月各五十万円をそれぞれ負担金として拠出してこの運営費にあてる。会計上の責任は炭労が負い具体的運営については「四者会議」で決定する。